

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2274202437		
法人名	有限会社 山秀		
事業所名	マミー・ケア・サポート	ユニット名	2F
所在地	静岡県静岡市葵区新伝馬一丁目10番50号		
自己評価作成日	平成22年10月15日	評価結果市町村受理日	平成23年1月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kaigo-kouhyo-shizuoka.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2274202437&SCD=320>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	セリオコーポレーション有限会社 福祉第三者評価・調査事業部		
所在地	静岡県静岡市清水区迎山町4-1		
訪問調査日	平成22年10月30日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

『ゆっくり、のんびり、生きがいを持ち共に生きよう』という理念の基に、入所者様の人間性を尊重して、介護に努めています。季節感を身体全体で感じていただく様、車椅子の方も含め、お弁当・おやつを持参し、一斉に外出することにより、入所者様同士・ご家族また職員との絆も深まっている。心身のリフレッシュにもつながるデイサービスとの交流・地域での催しへの参加・パン教室・織物教室・ちぎり絵等、地域との文化交流も定着してきている。尚、毎週全員参加型レクリエーションにご家族様も積極的に参加して下さり現在も継続している。「とても楽しみにしています。」とのありがたいお言葉も頂いています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設して4年7ヶ月、男女職員が揃い恵まれた職員体制と抜群のチームワークで取り組んでいる事業所である。ケアのための職員であると同時に、利用者と共に生活する生活相手であることを認識し、利用者主体のケアを常に心掛けている。1階のデイサービスと相互に交流を図りながら日々のサービスを提供している職員の思いの深さが感じられた。記録類が整備され介護経過や家族とのやり取りが明確である。家族の来訪は頻繁にあり信頼も厚く利用者・家族との強い結びつきを実践している。利用者の表情は穏やかで明るく利用者同志の会話も弾んでいた。今後は地域における介護の拠点となるよう活躍が期待される。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「ゆっくり、のんびり、生きがいを持ち、共に生きよう」という理念に基づき、ゆったりとした環境の中、理念の共有と実践に向けて努力している。	お互いが持てる力を出し合い共に生きよう、と利用者が自分の居場所でゆったりと安心して過ごせるホームを目指して、職員全員が理念を共有し取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	現在も町内会に加入し、地域の行事や老人会ボランティアの受け入れを積極的に行なっている。また、近隣の中学、高校、短大の福祉体験や介護実習も受け入れるなど、地域と密着した交流も実施している。	地域住民を含めた「健康ふれあい祭り」を実施し、ホームを理解して頂く働きかけや関係作りに努めている。地域のパン教室に参加している利用者もあり、その人らしい生活を継続している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	職員と共に利用者が日々近所を散歩する折に地域の方と挨拶を交わすなど徐々に利用者地域の人々をつなぐ様に務めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族代表、施設長、職員で2ヶ月に1回の会議を開催している。	会議は2ヶ月に1度開催している。参加は自治会長、家族代表、ホーム関係者・職員で構成され、サービスの実施状況や家族要望など意見交換をしている。情報を収集してサービスの向上に活かしている。	議題によって参加メンバーを追加するなど、更に充実した会議となるよう取り組まれたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市からの指導の下、必要に応じ連絡を取りながら質の向上そして協力関係を築くように取り組んでいる。	報告・質問がある時には話し合いを行い、介護の質の向上や協力関係に努めている。運営推進会議への出席もお願いしている。	更に市町村や地域包括支援センターと連携し、事業所の意義や貢献度が深まることを期待したい。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内の職員が「身体拘束」についての研修会に参加し常に理解を深めるようにしている。又、利用者の生命を守るので、玄関等の施錠についてはご家族からの安心の声を頂いている。	「身体拘束ゼロ宣言」をうたっており、職員は尊厳についても良く理解している。外出は利用者の状態を考慮して対応している。ホーム内は広く開放的で、職員は見守りにより安全で自由に過ごせるよう支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内の職員が虐待防止についての研修会に参加し、虐待防止の目と感覚を養っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内の職員が権利擁護の研修会に参加し、必要とする人の見極めが出来る目と感覚を養うようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書の内容、看取りの方針など重要な項目に関してはゆとりのある説明時間を確保し、十分な理解が得られるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	発意の弱い利用者については、利用者の示す表情・言葉・態度などから管理者と職員が対応を協議すると共に、ご家族の要望も伺って、運営に反映させている。外部者へ表せる機会をご家族への説明を除き特に設けられていない。	意見箱・運営推進会議・電話や来訪時等、何でも言ってもらえるような話しやすい雰囲気、場作りに留意している。家族との対応等意思の疎通が十分であることが窺える。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者や管理者が運営に関する職員の意見、提案を書面で集約・把握・検討する仕組みがある。また、職員から管理者への口頭による意見具申も日常的に行ない、運営に反映されている。	管理者は日頃から話しやすい雰囲気づくりを心掛け、折にふれ職員に声を掛けて相談や提案を聞いている。職員研修を通しての話し合いも行われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員がやりがいや向上心を持てる様に代表者は様々な研修会などに出席できるよう配慮している。また、勤務時間、希望休みは職員の希望を必ず取り入れ、職員が働きやすいよう配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は、管理者との毎日のミーティングを通じて各人の力量やケアの実態を把握している。必要と思われる職員には、研修の機会を積極的に取り入れている。また、職員全体のミーティングにも出席し現場の実情把握をしながら職員の指導に努めている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者は、ネットワーク作り、スキルアップとサービスの向上を目指して、職員が同業者との交換研修を持つ機会を設定し定期的の実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人が困っている事、不安な事、要望等に傾聴し、本人の不安を出来る限り取り除くような声かけに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人が困っている事、不安な事、要望等に耳を傾けると共にサービス、種類、提供方法等を説明して信頼関係をつくる努力をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人とご家族がまず必要としている支援をよく聞き取り、訪問マッサージや音楽療法など他の自立支援のためのサービス導入も提案している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入所時に見られなかった感情の表現や、会話が生まれ利用者からのねぎらいの言葉をかけられたり、励まされたりで職員も元気付けられることが多い。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月、ご家族へのお便りの発送や毎週火曜日にはご家族も参加してのお楽しみ会、季節ごとの行事等を計画し、ご家族と共に本人を支援するための関係作りに努力している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人のなじみの場所や人間関係を継続するためには、ご家族の支援が欠かせないため、ご家族へ可能な限り来所やご家族との外出を働きかけている。	利用者は職員と一緒に行きつけのお店に買い物やパン教室へ出掛けている。友人の訪問や電話・文通の機会を楽しみにしている。時には家族と旅行に出かける利用者もあり、旧来の関係維持に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入所期間が長くなると利用者同士の相互理解が進み、自然発生的に役割も出来つつある。同時にトラブル発生時には、利用者の話しによく耳を傾け本人を尊重しつつ問題解決のための声かけ、レクリエーションへの誘導などを行なっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約を終了されても利用者又は、家族との関係をたちきらないように、その後の様子を伺うように努めている。必要に応じて、相談に乗ったり、新たなサービス導入を提案したりで支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	理念を基に、入所時は、本人と家族に対して面談と書面にて意向の聞き取りに努めている。入所後は、利用者の様子をよく見守りながらご家族の目から見た意向との相違点があればよく聞き取り把握するよう努めている。	職員は日々のふれあいの中で表情や行動の変化を感じ取り、意向を汲み取る支援をしている。寄り添ってゆっくり話を聴くことにより、利用者が「ちょっとお願いしたいんだけど」と気軽に言える関係が作られている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に、本人・ご家族から出来るだけ多くの情報をもらうよう努めている。また、日常生活中に本人から知り得た内容も情報として職員間でも共有できるように、申し送り・介護日誌等に記録し本人との対話が豊かになるように活かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	身体状況は、毎朝のバイタルチェックを記録し生活上の安心、不安についてはご本人への細やかな声かけにより把握するよう努めている。又、本人が訴えられない方についても行動の変化はもろさず職員間での情報共有に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人日々の生活、身体状況に合わせ、課題とケアについて、本人・家族・医師との話し合い、職員間での意見交換も行いながら、創意工夫とアイデアを反映した介護計画の作成にあたっている。	職員は利用者の状態変化を敏感に感じ取り、申し送りやミーティングなどで意見を交換している。日々の気付きや情報を基に、利用者や家族の意見を取り入れて、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	計画に基づく気づきや工夫を介護日誌や申し送りに記録し、職員間での情報の共有が出来るよう努め、柔軟に対応できる職場の雰囲気、環境を整え、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	デイサービス、ヘルパー事業所を併設しているため、デイサービス利用者やそのボランティアとの交流イベントへの参加、要望があれば、介護保険外での個別支援も受けやすい環境が整えられている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人の希望に合わせ、デイサービスへ訪問するボランティアの各楽器演奏や舞踊との交流、福祉事業や公民館主催の音楽会などへの参加も積極的に支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の受診を希望する利用者には、その支援を行い、週2回定期訪問診療により利用者の健康管理を図っている。オーナーが歯科医のため、口腔内の管理に即対応できている。	希望のかかりつけ医に受診できる。かかりつけ医とは綿密に情報交換をし、相談や助言を受けられる体制が確立している。受診記録や健康状態を家族に随時連絡して情報を共有、医療面での安心に繋がっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力医療看護職員と常に連絡をとりながら、かかりつけ医や専門医療機関受診のための支援を行なっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した場合は、医療機関と利用者家族との連絡を密に行い面会の機会を得て、利用者の安心につながる支援をしている。尚、入退院時には必ず職員が同行しご家族にも安心して頂ける様に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に十分な時間をもち確認している。	別添契約書で重度化での対応指針や看取りについての説明をし、状態変化に応じて随時家族の意思を確認している。訪問看護による24時間体制のほか、夜間帯に緊急当番の職員を配置し、緊急時のサポート体制を確立している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な研修を行っているが、新規採用職員には行き届いていない時がある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に利用者・職員が共に地域消防隊の立会い指導の下、防災訓練を行っている。	消防署の協力を得て状況に合わせた訓練が行なわれている。スプリンクラーの設置・IH調理器の使用・非常用の備蓄のほか、夜間緊急当番職員を配置し不測の事態に備えているが、未だ地域の協力は得られていない。	非常時には近隣住民の協力が必要となる。運営推進会議などで話し合いを重ね、地域との連携・協力体制の構築が望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーに関する情報は、スタッフ以外は開ける事が出来ない書庫に保管している。利用者への声かけは一人ひとりの人格を尊重するよう日頃より努めている。	尊厳を大事にした細やかな心配りをしている。居室に置かれたポータブルトイレには見られないよう職員手作りの屏風が置かれ、食事介助の利用者には皆と同じようにエプロンをしないで食事をする気遣いがされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の希望は、やりとりを細かく行う事で表しやすい環境作りに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人一人のペースを留意し、その人らしい暮らしに努める。また、対応も介護記録に記入し、申し送りで伝達するようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者の希望により一緒にショッピングに出かけたり、ご家族又は事業者側でもこれらの支援をしている。散髪は、ボランティアで支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は、時々梅干作り、干し柿作り、ちらし寿司作りなどをスタッフと一緒にしている。食事時間は、スタッフも一緒にテーブルにて会話しながらゆったりと召し上がって頂くよう努めている。	弁当持参の外出や外食、手作りのデザート、小旅行気分を味わいながらの郷土料理など、利用者の意見を取り入れながら、様々な食を楽しむ工夫がされている。和やかに笑顔で会話を楽しむ利用者の姿が見られた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の献立メニューは、栄養バランスを考慮し、スタッフ全員が交替で立てている。水分補給も申し送り等で行い、必要量を摂取出来るよう努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは、毎食後声かけと介助により行っている。異常があれば、歯科医が往診・受診出来る仕組みが出来ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄時間をチェックし、パターン習慣を活かし気持ちよく排泄できるよう支援している。排泄の自立している方には、排泄時刻の記入をすすめスタッフも確認できる仕組みになっている。	職員は一人ひとりの状況に合った対応をしている。歩行訓練を兼ねて歌いながら誘導したり、洋便座に慣れていない利用者が職員の工夫により使用できるようになったり、自立に向けた支援に積極的に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の原因に沿い飲食物や運動により予防と解消の支援を行っている。服薬の際は、医師の指示に従い身体の負担とならないよう配慮して行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人一人の希望やタイミングを大切にし利用者の希望に沿って気持ちよく入浴していただくよう努めている。	週に2・3回入浴している。利用者の希望に沿って時間をずらしたり、必要に応じて清拭や足浴にしたり、個々に柔軟に対応している。入浴拒否の利用者が、職員の温かな対応により入浴出来るようになった事例もある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣や体調に応じ休息したり安眠できるよう支援を行っている。夜、眠れない方には、医師からの指示連携を取りながらケアに努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人一人の薬の目的や副作用、用法や用量については処方箋によって理解しており、服薬の支援と症状の変化を見逃さず、医師の指示を仰ぐ体制が出来ている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	施設での生活が定着する中で、一人一人の役割楽しみごとが見えてきました。個別で支援する事と利用者同士で共有しあう場作りを平行して作る努力を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人一人の心境と体調を考慮しながら外出の機会を日常的に作るよう努めている。家族や地域の人々とも協力しながら支援している。	天候と体調に配慮しながら、頻繁に外出支援が行われている。車椅子の利用者も残らず参加し、ドライブ・花見・イベントなど多種多様な取り組みをし、張り合いのある生活をしている。家族も一緒に参加していることにより、利用者・職員・家族の絆も深まっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出する際や散歩時に利用者が買物を出る機会を設け、買物の楽しみが味わえる支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	リクリエーションで利用者一人一人がちぎり絵で作った手作りはがきを利用し、大切な人への交流、手紙を出すという楽しみを支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関は事務所と隣接し、来訪者と直接顔を合わせる事ができ、利用者も覗いて会話を楽しんでいる。廊下は広く明るいので壁に季節ごとの催し物の写真を貼り、利用者は見て楽しんでいる。	居間や食堂だけでなく、廊下も広々としている。3箇所ある洗面台は高さが違い、個々の状態に合わせて使用できる。トイレの入り口や居室は居間から見えない造りになっており、プライバシーも保たれている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロア横の和室を気に入られている方、TVが良く見える位置がよい方、テーブルにて会話がはずむ女性の方々、居室での合唱の練習をされる方、一人一人の居場所作りを今後も工夫していきたい。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室で亡き家族(つれあい)の写真を置かれている方、好きな犬の写真を飾る方、ぬいぐるみや人形を枕元に置かれる方。少しの工夫で本人が過ごし易い環境作りに努めている。	使い慣れた家具や日用品のほか、家族の写真や作品などが飾られ、その人らしく生活できるよう工夫されている。代表手作りのスタンドグラスが居室の小窓に飾られ、自分の部屋の目印になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室前のドアへの名前プレートやトイレ前の表示を行い、利用者に分かり易くしている。又、手すりを廊下全体につけ安全に過ごせる環境作りに努め、声かけ見守りにて自立支援をしている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2274202437		
法人名	有限会社 山秀		
事業所名	マミー・ケア・サポート	ユニット名	3F
所在地	静岡県静岡市葵区新伝馬一丁目10番50号		
自己評価作成日	平成22年10月15日	評価結果市町村受理日	平成23年1月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kaigo-kouhyo-shizuoka.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2274202437&SCD=320>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	セリオコーポレーション有限会社 福祉第三者評価・調査事業部		
所在地	静岡県静岡市清水区迎山町4-1		
訪問調査日	平成22年10月30日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

『ゆっくり、のんびり、生きがいを持ち共に生きよう』という理念の基に、入所者様の人間性を尊重して、介護に努めています。季節感を身体全体で感じていただく様、車椅子の方も含め、お弁当・おやつを持参し、一斉に外出することにより、入所者様同士・ご家族また職員との絆も深まっている。心身のリフレッシュにもつながるデイサービスとの交流・地域での催しへの参加・パン教室・織物教室・ちぎり絵等、地域との文化交流も定着してきている。尚、毎週全員参加型レクリエーションにご家族様も積極的に参加して下さり現在も継続している。「とても楽しみにしています。」とのありがたいお言葉も頂いています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

※複数ユニットの外部評価結果は1ユニット目の評価表に記入されています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「ゆっくり、のんびり、生きがいをもち、共に生きよう」という理念に基づき、ゆったりとした環境の中、理念の共有と実践に向けて努力している。	※複数ユニットの外部評価結果は1ユニット目の評価表に記入されています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	現在も町内会に加入し、地域の行事や老人会ボランティアの受け入れを積極的に行なっている。また、近隣の中学、高校、短大の福祉体験や介護実習も受け入れるなど、地域と密着した交流も実施している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	職員と共に利用者が日々近所を散歩する折に地域の方と挨拶を交わすなど徐々に利用者や地域の人々をつなぐ様に務めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族代表、施設長、職員で2ヶ月に1回の会議を開催している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市からの指導の下、必要に応じ連絡を取りながら質の向上そして協力関係を築くように取り組んでいる。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内の職員が「身体拘束」についての研修会に参加し常に理解を深めるようにしている。又、利用者の生命を守るので、玄関等の施錠についてはご家族からの安心の声を頂いている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内の職員が虐待防止についての研修会に参加し、虐待防止の目と感覚を養っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内の職員が権利擁護の研修会に参加し、必要とする人の見極めが出来る目と感覚を養うようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書の内容、看取りの方針など重要な項目に関してはゆとりのある説明時間を確保し、十分な理解が得られるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	発意の弱い利用者については、利用者の示す表情・言葉・態度などから管理者と職員が対応を協議すると共に、ご家族の要望も伺って、運営に反映させている。外部者へ表せる機会をご家族への説明を除き特に設けられていない。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者や管理者が運営に関する職員の意見、提案を書面で集約・把握・検討する仕組みがある。また、職員から管理者への口頭による意見具申も日常的に行ない、運営に反映されている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員がやりがいや向上心を持てる様に代表者は様々な研修会などに出席できるよう配慮している。また、勤務時間、希望休みは職員の希望を必ず取り入れ、職員が働きやすいよう配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は、管理者との毎日のミーティングを通じて各人の力量やケアの実態を把握している。必要と思われる職員には、研修の機会を積極的に取り入れている。また、職員全体のミーティングにも出席し現場の実情把握をしながら職員の指導に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者は、ネットワーク作り、スキルアップとサービスの向上を目指して、職員が同業者との交換研修を持つ機会を設定し定期的実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人が困っている事、不安な事、要望等に傾聴し、本人の不安を出来る限り取り除くような声かけに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人が困っている事、不安な事、要望等に耳を傾けると共にサービス、種類、提供方法等を説明して信頼関係をつくる努力をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人とご家族がまず必要としている支援をよく聞き取り、訪問マッサージや音楽療法など他の自立支援のためのサービス導入も提案している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入所時に見られなかった感情の表現や、会話が生まれ利用者からのねぎらいの言葉をかけられたり、励まされたりで職員も元気付けられることが多い。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月、ご家族へのお便りの発送や毎週火曜日にはご家族も参加してのお楽しみ会、季節ごとの行事等を計画し、ご家族と共に本人を支援するための関係作りにも努力している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	本人のなじみの場所や人間関係を継続するためには、ご家族の支援が欠かせないため、ご家族へ可能な限り来所やご家族との外出を働きかけている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入所期間が長くなると利用者同士の相互理解が進み、自然発生的に役割も出来つつある。同時にトラブル発生時には、利用者の話しによく耳を傾け本人を尊重しつつ問題解決のための声かけ、レクリエーションへの誘導などを行なっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約を終了されても利用者又は、家族との関係をたちきらないように、その後の様子を伺うように努めている。必要に応じて、相談に乗ったり、新たなサービス導入を提案したりで支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	理念を基に、入所時は、本人と家族に対して面談と書面にて意向の聞き取りに努めている。入所後は、利用者の様子をよく見守りながらご家族の目から見た意向との相違点があればよく聞き取り把握するよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に、本人・ご家族から出来るだけ多くの情報をもらうよう努めている。また、日常生活中に本人から知り得た内容も情報として職員間でも共有できるように、申し送り・介護日誌等に記録し本人との対話が豊かになるように活かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	身体状況は、毎朝のバイタルチェックを記録し生活上の安心、不安についてはご本人への細やかな声かけにより把握するよう努めている。又、本人が訴えられない方についても行動の変化はもらず職員間での情報共有に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人日々の生活、身体状況に合わせ、課題とケアについて、本人・家族・医師との話し合い、職員間での意見交換も行いながら、創意工夫とアイデアを反映した介護計画の作成にあたっている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	計画に基づく気づきや工夫を介護日誌や申し送りに記録し、職員間での情報の共有が出来るよう努め、柔軟に対応できる職場の雰囲気、環境を整え、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	デイサービス、ヘルパー事業所を併設しているため、デイサービス利用者やそのボランティアとの交流イベントへの参加、要望があれば、介護保険外での個別支援も受けやすい環境が整えられている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人の希望に合わせ、デイサービスへ訪問するボランティアの各楽器演奏や舞踊との交流、福祉事業や公民館主催の音楽会などへの参加も積極的に支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の受診を希望する利用者には、その支援を行い、週2回定期訪問診療により利用者の健康管理を図っている。オーナーが歯科医のため、口腔内の管理に即対応できている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力医療看護職員と常に連絡をとりながら、かかりつけ医や専門医療機関受診のための支援を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した場合は、医療機関と利用者家族との連絡を密に行い面会の機会を得て、利用者の安心につながる支援をしている。尚、入退院時には必ず職員が同行しご家族にも安心して頂ける様に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に十分な時間を持ち確認している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な研修を行っているが、新規採用職員には行き届いていない時がある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に利用者・職員が共に地域消防隊の立会い指導の下、防災訓練を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーに関する情報は、スタッフ以外は開ける事が出来ない書庫に保管している。利用者への声かけは一人ひとりの人格を尊重するよう日頃より努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の希望は、やりとりを細かく行う事で表しやすい環境作りに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人一人のペースを留意し、その人らしい暮らしに努める。また、対応も介護記録に記入し、申し送りで伝達するようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者の希望により一緒にショッピングに出かけたり、ご家族又は事業者側でもこれらの支援をしている。散髪は、ボランティアで支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は、時々梅干作り、干し柿作り、ちらし寿司作りなどをスタッフと一緒にしている。食事時間は、スタッフも一緒にテーブルにて会話しながらゆったりと召し上がって頂くよう努めている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の献立メニューは、栄養バランスを考慮し、スタッフ全員が交替で立てている。水分補給も申し送り等で行い、必要量を摂取出来るよう努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは、毎食後声かけと介助により行っている。異常があれば、歯科医が往診・受診出来る仕組みが出来ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄時間をチェックし、パターン習慣を活かし気持ちよく排泄できるよう支援している。排泄の自立している方には、排泄時刻の記入をすすめスタッフも確認できる仕組みになっている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の原因に沿い飲食物や運動により予防と解消の支援を行っている。服薬の際は、医師の指示に従い身体の負担とならないよう配慮して行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人一人の希望やタイミングを大切にし利用者の希望に沿って気持ちよく入浴していただくよう努めている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣や体調に応じ休息したり安眠できるよう支援を行っている。夜、眠れない方には、医師からの指示連携を取りながらケアに努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人一人の薬の目的や副作用、用法や用量については処方箋によって理解しており、服薬の支援と症状の変化を見逃さず、医師の指示を仰ぐ体制が出来ている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	施設での生活が定着する中で、一人一人の役割楽しみごとが見えてきました。個別で支援する事と利用者同士で共有しあう場作りを平行して作る努力を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人一人の心境と体調を考慮しながら外出の機会を日常的に作るよう努めている。家族や地域の人々とも協力しながら支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出する際や散歩時に利用者が買物を出来る機会を設け、買物の楽しみが味わえる支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	リクリエーションで利用者一人一人がちぎり絵で作った手作りはがきを利用し、大切な人への交流、手紙を出すという楽しみを支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関は事務所と隣接し、来訪者と直接顔を合わせる事ができ、利用者も覗いて会話を楽しまれている。廊下は広く明るいので壁に季節ごとの催し物の写真を貼り、利用者は見て楽しまれている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フローア横の和室を気に入られている方、TVが良く見える位置がよい方、テーブルにて会話がはずむ女性の方々、居室での合唱の練習をされる方、一人一人の居場所作りを今後も工夫していきたい。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室で亡き家族(つれあい)の写真を置かれていた方、好きな犬の写真を飾る方、ぬいぐるみや人形を枕元に置かれる方。少しの工夫で本人が過ごし易い環境作りに努めている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室前のドアへの名前プレートやトイレ前の表示を行い、利用者に分かりやすくしている。又、手すりを廊下全体につけ安全に過ごせる環境作りに努め、声かけ見守りにて自立支援をしている。		